

# 一茶のふるさと 信濃町をめぐろう



## 1 国史跡 小林一茶旧宅

一茶と弟は、間口九間の伝馬屋敷を半分ずつ相続し、家を仕切って暮らしていたが、文政10年(1827)の大火で焼失。一茶は焼け残った土蔵で、同年11月19日に65年の生涯を閉じた。一茶の弟が建てたとされる町家の建物とともに昭和32年(1957)、国史跡の指定を受けた。現在は整備され、自由に見学ができる。



門の木も先づゝがなし夕涼

## 6 大久保池



新田開発のために江戸初期に造られた溜池で、ミズバショウやミツガシワ、ジンサイなどの水生植物に恵まれている。黒姫山を見渡せる絶好のロケーションから、映画「一茶」のロケ地となり、一茶に嫁ぐ三人の妻の花嫁行列の場面などが撮影された。

## 11 三本松



飯綱町の北国街道沿いにあり、同名の信号が目印。15歳で江戸に奉公に行く一茶が、見送る父とここで別れたといわれ、句碑が建てられた。江戸時代から旅人の目印となっていた先代の松は枯れ、昭和26年に植えられた松が形よく残っている。映画「一茶」でも、父との別れは、一茶と父や弟との心の交流を描く重要な場面になっている。

父ありて明ぼの見たし青田原

## 2 俳諧寺

明治43年(1910)、地元の有志が一茶を偲んで建てたお堂で、松柏山俳諧寺といった。ここを訪れた著名な俳人達の作品が格天井に掲げられている。お堂の前には旅姿の一茶像と句碑がある。



初夢に古郷を見て涙哉

## 7 一茶の妻 菊の実家跡

県境に近い赤川集落に、一茶の最初の妻常田菊の実家があった。鉄道の敷設や、国道の改修が何度もあり、当時の地形の面影がないが、その位置は現集落の北側、池尻川の橋から北に直進し、鉄道に突き当たる辺りとされる。

我菊や形にもふりにもかまはずに

## 12 旧北国街道

佐渡から江戸へ金を運ぶ道として慶長16年(1611)に制定され、江戸時代を通じて、加賀百万石の前田家の参勤交代、善光寺への参詣、直江津から内陸へ塩などの産物を運ぶ道として繁栄した。一茶にとっては江戸とふるさとを結ぶ道であった。



述供はかすみ引きり加賀の守

## 3 一茶一族の墓

一茶記念館の裏手、小丸山の墓地に一茶9才の年、明和8年(1771)に建てられた小林家一族の墓。ここに一茶も眠っている。一茶は生前、父の命日(5月21日)にお墓参りをしている。



匂オテ御目にかかるぞ草の露

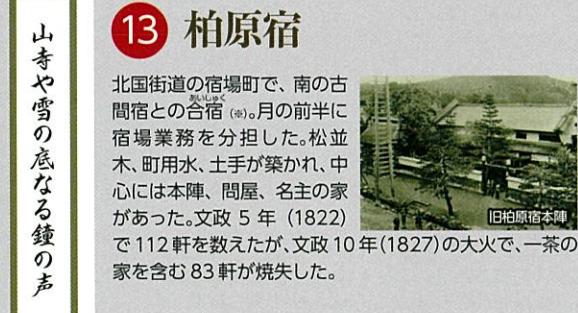
## 8 雲龍寺

長月庵翁の墓(信濃町指定文化財)が建つ寺。肥前大村藩士から行脚俳人となった若翁は、柏原宿本陣に逗留し、幼少期の一茶も手ほどきを受けたと伝えられる。文化10年(1813)に柏原で亡くなり雲龍寺に埋葬された。墓は明治29年建立。

山寺や雪の底なる鐘の声

## 13 柏原宿

北国街道の宿場町で、南の古間宿との合宿(※)。月の前半に宿場業務を分担した。松並木、町用水、土手が築かれ、中心には本陣、問屋、名主の家があった。文政5年(1822)で112軒を数えたが、文政10年(1827)の大火で、一茶の家を含む83軒が焼失した。



餅つきや今それがしも故郷入

## 4 小丸山公園

一茶記念館に隣接した公園で、一茶の句碑のほか、童謡「一茶さん」の歌碑、一茶顕彰に尽力した東松露香、中村蘿月(六郎)、栗生純夫、中村百民、清水哲や、この地を訪れた種田山頭火の句碑がある。



是がまつひの植か雪五尺

## 9 一茶母の実家跡

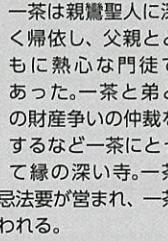
一茶の母くにの実家、宮沢家の跡地。一茶は土地の風習で、ここで産湯を使ったとされ、後世「胞衣塚」が建てられた。一茶と弟の遺産相続交渉では、いとこにあたる宮沢徳左衛門が一茶を後見し、「一茶預金券」を書き残した。

ともかくもあなたまかせの年の暮



## 5 一茶の菩提寺・明専寺

一茶は親鸞聖人に深く帰依し、父親とともに熱心な門徒であった。一茶と弟との財産争いの仲裁をするなど一茶にとって縁の深い寺。一茶の命日11月19日には、毎年一茶忌法要が営まれ、一茶を偲んで一茶忌全国俳句大会が行われる。

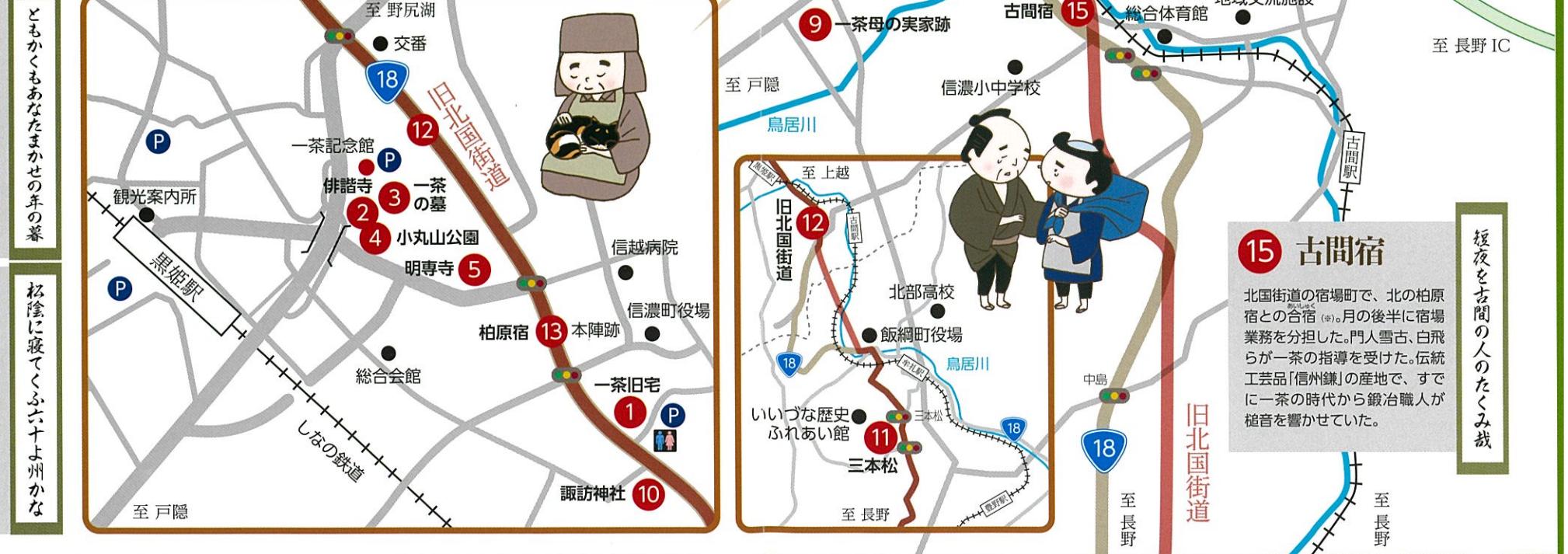


我と来て遊べや親のない雀

## 10 諏訪神社

文政12年(1829)、一茶三回忌に、一茶の弟と門人達によって、柏原宿の入口に建てられた初めての一茶句碑が、現在諏訪神社境内に移されている。撰文は中野代官所の手付大塚庚作による。(信濃町指定文化財)。

松陰に寝てくふ六十よ州かな



制作:一茶のふるさとガイドマップワークショップ

タングラム  
斑尾

しづかさや湖水の底の雲のみね

## 14 野尻宿

北国街道の宿場町で、佐渡から江戸へ金を運ぶ際の御金蔵があった。一茶の門人が多く、一茶の父や妻菊を診察した医師迅碩の家もあった。少し南下すると、道の両側に現存する貴重な一里塚を見ることがある。

## 15 古間宿

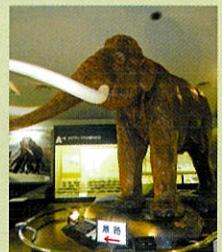
北国街道の宿場町で、北の柏原宿との合宿(※)。月の後半に宿場業務を分担した。門人雪古、白飛らが一茶の指導を受けた。伝統工芸品「信州錦」の産地で、すでに一茶の時代から鍛冶職人が槌音を響かせていた。

短夜を古間の人たちくみ哉

信州信濃町

おすすめスポット・特産品

### ナウマンゾウ博物館



現在工事のため休館中。平成30年3月リニューアルオープン予定。野尻湖で50年続く発掘の成果を中心に展示。実物大のナウマンゾウ復元像や豊富な骨器・石器を展示し、実際の化石にふれるこどもができる。石器づくりなど体験講座が人気。

### 黒姫童話館



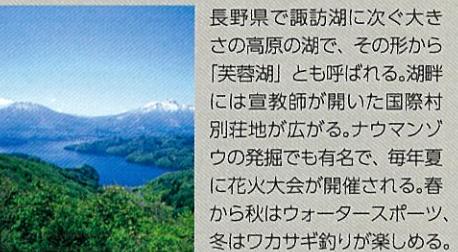
「モモ」「ネバーエンディングストーリー」の作者ミヒャエル・エンデと松谷みよ子の資料を中心に、信州の民話や児童文学を大人も子どもも親しみやすく学べる。併設のギャラリーでは絵本や童話の企画展も開催。週末はイベントを開催。

### タングラム斑尾



斑尾山の西側に広がる高原リゾート。ホテルやスキー場、ゴルフ場、アスレチックなどのほか、ユリ園やラベンダー園も楽しめる。山頂のテラスからは、野尻湖を一望できる絶景を眺めることができる。

### 野尻湖



長野県で諏訪湖に次ぐ大きな高原の湖で、その形から「芙蓉湖」とも呼ばれる。湖畔には宣教師が開いた国際村別荘地が広がる。ナウマンゾウの発掘でも有名で、毎年夏に花火大会が開催される。春から秋はウォータースポーツ、冬はワカサギ釣りが楽しめる。

### 黒姫高原



標高2053mの黒姫山の山裾に広がる高原。春から秋は、菜の花、ダリア、コスモスの花々が咲き、冬はスキー場として、一年を通じて楽しめる。山中の御鹿池をめぐる林道には、心と体を癒す「癒しの森」コースが整備されている。

### 信濃町の特産品



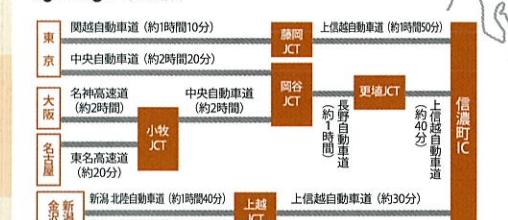
甘さがぎっしり詰まった人気のトウモロコシをはじめとした高原野菜、一茶も愛した名物「霧下そば」、黒姫高原の牧場で作られる乳製品、甘酸っぱいブルーベリー、伝統の地酒など、季節の美味しいものが盛りだくさんです。



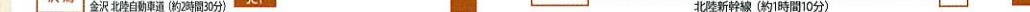
### アクセスマップ



#### 車の場合



#### 電車の場合



お問い合わせ先

#### 信濃町総合情報センター

(道の駅しなの)

長野県上水内郡信濃町柏原1260-11

☎026-255-6677 9~17時(火曜休)

<http://www.dis.janis.or.jp/~info-shinano>

#### 信濃町観光案内所

(黒姫駅)

長野県上水内郡信濃町柏原2692-12

☎026-255-3226 9~17時

<http://www.shinano-machi.com>

#### 信濃町産業観光課

長野県上水内郡信濃町柏原428-2

☎026-255-3114

<https://www.town.shinano.lg.jp>

## 一茶のふるさと巡りガイドマップ



### 小林一茶 (1763 ~ 1827)

信州柏原（長野県信濃町）で農家の長男として生まれる。3歳で母を亡くし、15歳で江戸に奉公に出た。その後、江戸で俳諧師として名声を得て、50歳で帰郷し、北信濃の宗匠として活躍。妻を迎える、4人の子どもに恵まれるが、妻子に次々と先立たれ、文政10年、大火で家を焼かれ、焼け残りの土蔵で65歳の生涯を閉じた。小さな命や弱いものを愛した一茶の俳句は、今でも親しまれている。

### 一茶年表

| 年齢         | 出来事                                 |
|------------|-------------------------------------|
| 宝暦13(1763) | 1 5月5日、信州柏原村農民小林弥五兵衛の長男に生まれる。本名弥太郎。 |
| 明和2(1765)  | 3 母にく沒                              |
| 明和7(1770)  | 8 繼母さつ、父弥五兵衛に嫁ぐ                     |
| 安永1(1772)  | 10 弟仙六(弥兵衛)生まれる                     |
| 安永5(1776)  | 14 祖母かな没                            |
| 安永6(1777)  | 15 江戸へ奉公に出る                         |
| 天明7(1787)  | 25 葛飾派 溝口素丸、森田元夢、小林竹阿らに師事           |
| 寛政3(1791)  | 29 14年ぶりの帰郷                         |
| 寛政4(1792)  | 30 西国への俳諧行脚に出発(寛政10年まで)             |
| 享和1(1801)  | 39 父弥五兵衛没。父の遺産分割の遺言を発端に、弟・継母と反目     |
| 文化1(1804)  | 42 徐々に葛飾派を離れ夏目成美らの句会に出るようになる        |
| 文化5(1808)  | 46 家と田畠を弟と二分割相続する証文を交わす             |
| 文化9(1812)  | 50 故郷永住を決意し帰郷                       |
| 文化10(1813) | 51 弟との遺産分割相続が決着                     |
| 文化11(1814) | 52 野尻赤川の常田久右衛門の娘菊(28歳)と結婚           |
| 文化13(1816) | 54 長男千太郎出生、死去                       |
| 文政2(1819)  | 57 前年生れた長女さと天然痘で死去                  |
| 文政3(1820)  | 58 次男石太郎出生するも翌年死去                   |
| 文政5(1822)  | 60 三男金三郎出生                          |
| 文政6(1823)  | 61 妻菊死去、金三郎衰弱死                      |
| 文政7(1824)  | 62 飯山藩士田中氏の娘雪(38歳)と再婚、雪を離縁          |
| 文政9(1826)  | 64 越後二俣の宮下左衛門の娘やを(32歳)と再婚           |
| 文政10(1827) | 65 柏原の大火で自宅類焼。焼け残りの土蔵に仮住まいし、11月19日没 |
|            | やをが遺娘やたを産む。やたは夫を迎える、一茶の血脉を現代まで伝える   |

### 一茶記念館



一茶の顕彰と遺物の保存を目的に、昭和35年に開館。平成15年にリニューアルされた。一茶の生涯と文学を、貴重な資料から紹介している。近所の民家から毎朝通勤してくるねこ館長のうみちゃんが来館者の人気を集めている。

所在地 〒389-1305 長野県上水内郡信濃町大字柏原 2437-2

電話 026-255-3741

ホームページ <http://www.issakinenkan.com>

入館料 おとな(高校生以上)500円(450円)、こども(小中学生)300円(260円)

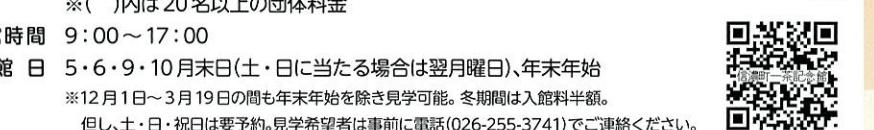
※( )内は20名以上の団体料金

開館時間 9:00~17:00

休館日 5・6・9・10月末日(土・日)に当たる場合は翌曜日)、年末年始

※12月1日~3月19日の間も年末年始を除き見学可能。冬期間は入館料半額。

但し、土・日・祝日は要予約。見学希望者は事前に電話(026-255-3741)でご連絡ください。



平成29年度 文化庁  
地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業